

椰子の実

島崎

藤村

名も知らぬ遠き島より
流れ寄る椰子の実一つ

故郷の岸を離れて
汝はそも波に幾月

旧の樹は生いや茂れる
枝はなほ影をやなせる

われもまた渚を枕
孤身の浮寝の旅ぞ

実をとりて胸にあつれば
新なり流離の憂

海の日ひの沈しずむを見れば
激たぎり落おつ異郷いきようの涙なみだ

思おもひやる八重やえの潮々しおしお
いづれの日ひにか国くにに帰かえらん